

データサイエンス・ラボ

(学内完結型)



学外のデータコンペティションに挑む

統計科学教員の指導を受けながら、学生たちは学外のデータ分析競技会(統計グラフコンクール、データ分析コンペティション)に参加し、そこで要求される実データに基づく課題を解決していった。例えば、前者では社会問題、後者では、与えられた購買履歴などのビッグデータから知見の導出(販売実績アップ策など)が課題となった。このラボでは連携先を持たず、学内完結型ラボとして実社会における課題解決を図った。

まずは統計の基礎知識を指導教員から習得したラボ生は、統計グラフコンクールへ挑戦した。過去作品の傾向を分析し、ディスカッションを交え戦略を練ったのち、作品制作に入った。岡山県統計グラフコンクール(PCの部)ではラボ生12名中6名が受賞し、上位4作品が全国大会である全国統計グラフコンクールへ出場し入選と佳作を受賞した。

後半は3つのチームに分かれ、それぞれが異なるコンペティションへ挑戦した。

和歌山県が主催する「第5回和歌山県データ利活用コンペティション」へ参加したチームでは、コンペのテーマは「アフターコロナに向けたまちづくり」。岡山県のさまざまなデータを活用し、地域の特色と空き家の活用が見込める「分散型ホテル」をメインに据えた提案を作成、多数の応募のあった第一次審査を突破し最終審査会では、95組中大学生部門で準優勝にあたる「政策アイデア賞」を受賞した。

各チームとも、大きいデータに恐れず取り組む力や社会でも通じる実践的な力、チームで取り組む協調性やチャレンジ精神を学んだ。全国の大学が参加するコンペティションに参加し、多くの人の前で発表を行ったことや企業が扱うビッグデータについて実際に目にして扱うことができたことなど、自分の成長に繋がるよい経験となり、今後の卒業研究や社会に出てのデータ分析などに臆せず立ち向かえる態度が養えた。